


整理番号	HT30104	分野	歴史	キーワード	実験考古学
------	---------	----	----	-------	-------

研究機関名	明治大学				
プログラム名	作って学ぶ考古学の世界—縄文時代のアクセサリ—貝輪を作って学ぶ—				
先生(代表者)	阿部 芳郎 (あべ よしろう) 明治大学・文学部・専任教授				
自己紹介	<p>わたしは縄文時代の人々の生活史について研究をしています。そのなかで、とくに装飾品の製作技術や使い方について知るために、出土品を計測したり実際に当時と同じ方法で装飾品を作ったり、さまざまな方法を用いて研究を進めています。</p> <p>遠い昔の人々の生活を知るために、あなたも実際に出土品を観察したり、貝を使った腕輪作りを体験してみませんか。</p>				
開催日時・募集対象	平成 30 年 8 月 1 日(水)	受講対象者	小学 5・6 年	募集人数	
集合場所・時間	明治大学駿河台 campus アカデミーコモン 1F ロビー	(集合時間)	9:30		
開催会場	明治大学文学部考古学専攻実習室 住所: 〒101—8301 東京都千代田区神田駿河台 1—1 アクセスマップ URL: https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html				

内 容

考古学は他の歴史学とは異なり、文字資料に頼らずに遺跡に残された遺物や遺構等の痕跡を多視点的に研究することにより過去の歴史を解明してきました。

本プログラムでは縄文時代を代表する装飾品である貝輪の製作技術の復元と着装実験をつうじて、古代人の知恵と、それを必要とした社会の特性について考えます。

そのために、まず、約 3500 年前の遺跡から出土したさまざまな遺物を実際に観察することを入り口として、忠実なデータに基づいた実験製作や製作品の使用実験と計測データの分析を通して、古代人の知恵と彼らが生きた社会の特性についてグループ学習をします。



また、とくに考古学だけでなく理化学的な方法や知識を提供し、文理融合の研究の意義について今日の先端的な考古学研究の現場を体感できるように配慮します。

本プログラムのねらいは、古代人がどのような技術を駆使して身の回りの資源を利用したのかという観点から、実際に腕輪に用いる貝の生態や腕輪を製作する際に用いる石器の石材産地など、複数の学問分野を横断した知識を一体として学ぶ姿勢を植え付け、歴史に対する興味を深めることにあります。

あなたも貝製腕輪の製作実験を通じて遠い縄文時代の人々の暮らしを復元してみませんか。

スケジュール	持ち物	
9:30～10:00 受付開始(駿河台キャンパス)	筆記用具 貝輪・修了証書を持ち帰る袋	
10:00～10:30 ガイダンス 科研費およびプログラムの説明		
10:30～11:00 遺跡出土貝輪および素材貝の観察[PPを用いた解説]		
11:00～12:00 貝輪製作実験開始		
12:00～13:00 お昼休憩		
13:00～15:00 貝輪実験つづき		特記事項
15:00～15:30 クッキータイム&後半の分析説明		昼食は必ず持参してください。
15:30～16:30 貝輪のサイズ計測と入力・データの解析と討論		
16:30～17:00 修了式(未来博士号授与・アンケート記入・回収)		
17:00 終了・解散		

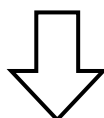
《お問合せ・お申込先》

所属・氏名：	明治大学 研究知財事務室 菅原 悠(すがわら ゆう)
住 所：	〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
TEL 番号：	03-3296-4398
FAX 番号：	03-3296-4283
E - m a i l：	kaken@mics.meiji.ac.jp (お申し込みは、日本学術振興会の Web からお願いします。) https://www.jsps.go.jp/hirameki/06_sanka.html
申込締切日：	平成30年7月9日(月)

※当プログラムは定員を超えた場合は申込締切日後に抽選を行い、7月16日(月)までに郵便(またはメール)にて全員にご連絡します。

《プログラムと関係する先生(代表者)の科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
阿部芳郎	H24-27	基盤研究(B)	24320159	縄文時代における長期継続型地域社会の変容と弥生時代への変遷に関する研究



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。